

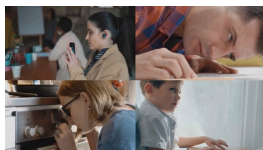
広告主名	日本視覚障害者柔道連盟	期間	2024年3月29日～継続中
施策名	VISIONGRAM	地域	全国

1. 施策の狙い

「視覚障がい者＝暗闇を生きている」というバイアスの打破。
見え方を共有可能にすることで、
インクルーシブな社会を実現する。

世界に2億人以上存在する、視覚障がい者。多くの人々は「視覚障がい者＝暗闇を生きている」と思い込んでいるが、WHOのデータによると、視覚障がい者の85%は部分的に視力が残っており、一人ひとりが異なる見え方をしている。一方で、彼らは自分の見え方を、言葉で伝えることは難しく、そのためにコミュニケーション・教育・就労など、日常生活のあらゆる場面で困難に陥っている。見え方を知ることができれば、健常者と障がい者は近づくことができるはず。

日本視覚障害者柔道連盟は、視覚障害者柔道を通じて、視覚障がいの啓蒙と理解促進に取り組んでいる。我々は、「視覚障がい者＝暗闇を生きている」というバイアスを打ち破り、一人ひとり異なる視覚障がい者の見え方を共有可能にし、インクルーシブな社会を実現する取り組みにチャレンジ。



2. アプローチ手法

世界初、検査データを元に、
一人ひとり異なる視覚障がいの
見え方を再現する、
インクルーシブテクノロジー。

我々は、視覚障害者柔道連盟が保有する大量のバラアスリートの検査データを分析。検査データを元に、視覚障害の見え方をドットで再現するアルゴリズムを開発。誰もが検査データを入力するだけで、自分の見え方を生成できる、「VISIONGRAM」を公開。スマートフォンやPCで、視覚障害の世界を簡単に体験・共有可能に。視覚障害者柔道の世界大会でVISIONGRAMを発表。障がい当事者、健常者の間で大きな話題に。この反響を受けて、誰でも自分の検査データを入力するだけでVISIONGRAMを作成できるシステムを一般公開。日本中の視覚障害者やその家族、そして、盲学校や病院などさまざまな施設に導入が進んでいる。



3. イノベティブなポイント

視覚障がい者がすでに持っている
データを活用し、視覚を再現。
全世界に展開可能なテクノロジー。

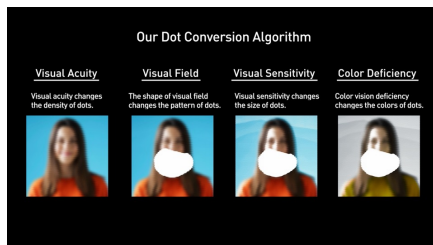
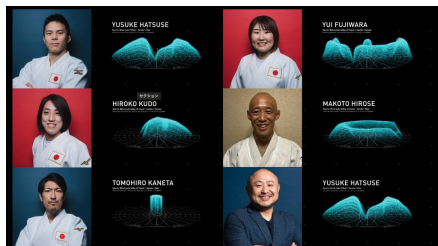
ポイント①: これまでも視覚障がいの典型的な症例を体験できるシミュレーションツールは存在したが、検査データを元に、一人ひとり異なる視覚障がい者の見え方を再現可能にするテクノロジーは、世界初(特許申請中)。

ポイント②: VISIONGRAMの作成には、視力検査と視野検査のデータが必要。この2つは、障害者手帳の申請に必要なため、多くの視覚障がい者がすでに持っているが、十分に活用されていなかった。我々は、検査データをサイト上に入力するだけで、VISIONGRAMを作成できるシステムを開発。

ポイント③: VISIONGRAMは世界標準の検査データ（GP）を使えるため、全世界に展開可能。日本にとどまらず、世界をよりインクルーシブにしていく。



IDEA



パラアスリートの医療データを解析し 視覚をドットで再現する独自のアルゴリズムを開発

視覚障がい者の検査情報を豊富に持つ、**視覚障害者柔道日本代表アスリートたちの医療データを解析**。眼科医の協力の下、複雑で多角的な視覚パラメータを、一元的かつ直感的な形式で表現するため、「**視覚をドットに変換**」する、**独自のアルゴリズムを開発**(特許出願中)。視力に応じて、ドットの密度が変化。視野の形に応じて、ドットの分布が変化。感度に応じて、ドットのサイズが変化。色覚異常に応じて、ドットの色が変化。これにより、検査データを入力するだけで、これまで知ることができなかった視覚障がい者一人ひとりの見え方を、一目で分かるビジュアルフィルターとして再現することを可能にした。

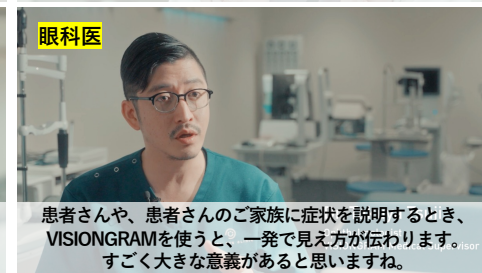
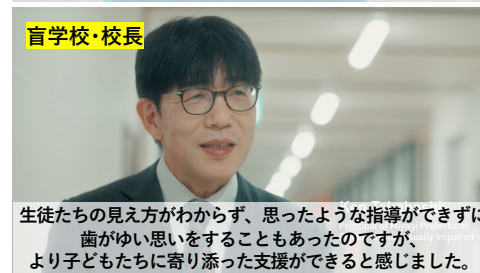
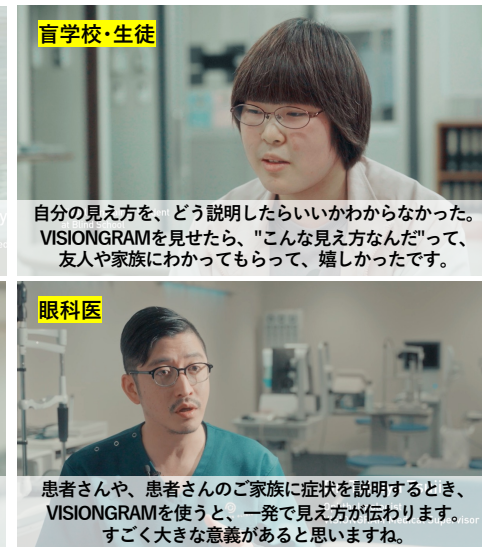
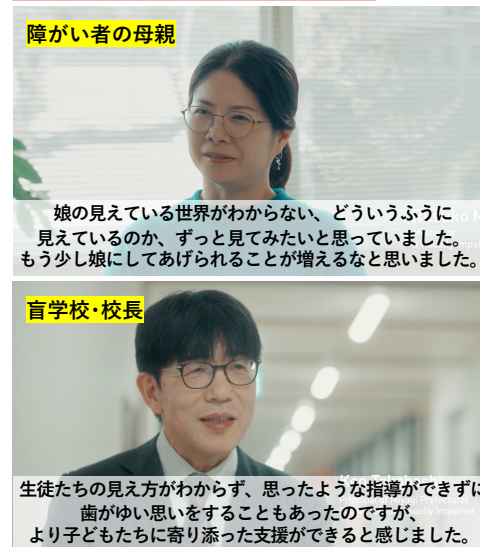
RESULT



障がい者にも、健常者にも、大きな話題に 全国の視覚障がい者が使用を開始

- ・健常者と視覚障がい者、両方の中で話題に。朝日新聞パラリンピック特集に技術協力。日本最古の点字新聞「点字毎日」の一面で紹介。総リーチは1100万を記録。
- ・日本中の視覚障がい者に、利用が拡大。実際に自分のVISIONGRAMを作成した、ある視覚障がい者の感動の声は、SNSで大きな話題となり、80万ビューを記録。
- ・大阪・関西万博2025、毎日新聞社が主催する「ビジョン・コンソーシアム」の展示に参加。全世界へプレゼンテーション。

USER'S INTERVIEW



医療・教育・就労支援など、様々な産業の80以上の団体から利用申請。障がい者のよりよい社会参加を可能にする取り組みに拡張。

VISIONGRAMは、プロジェクトスタートから2年後、全国の病院・企業・大学医学部・盲学校・障がい者支援団体をはじめとする、様々な産業の80以上の機関から利用申請。医療分野では、28ヶ所の病院で活用。一般人には難解だった検査データをわかりやすく変換することで、患者やその家族に、**医師が見え方を簡単に伝える**ことが可能に。教育分野では、18ヶ所の学校で活用、特に低年齢の子どもでも直感的に障がいを理解できる**教育ツールとして活用**され、インクルーシブな価値観を持った子どもの育成に貢献。さらに29ヶ所の盲学校・支援団体では、**視覚障がい者の就労支援**にも活用、企業と視覚障がい者のコミュニケーションギャップが埋められるように。VISIONGRAMは単なる可視化ツールではない、**視覚障がい者の社会参加を可能にするインクルーシブテクノロジー**として、日本全国に普及が進んでいる。